

妖精が恋をした森と水。

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は、ヤイロチョウの生息地を守る「四万十ヤイロチョウの森トラスト」をご紹介します。

ヤイロチョウの仲間は熱帯地域に分布する鳥で、夏の繁殖期になると日本に渡ってきます。地表で生活し、非常に賢く身を隠すのが得意。声はすれどもその姿を見た人は少なく、「幻の鳥」と言われています。学名「*Pitta nympha*」の *nympha* は「妖精」という意味です。

この鳥は照葉樹林や針広混交樹林の茂る森に飛来し、日当たりのいい南斜面で、なおかつ水の豊富な場所を繁殖地として選びます。また、エサの9割以上がミズなので、落ち葉がたくさんあることも重要なポイント。実際そういう森は少なく、日本で最も生息する条件を満たしているのが四万十川中流域の森なのだそうです。

「めだかトラスト」などの活動を行ってきた(社)高知県生態系保護協会は、平成6年から町の鳥にも指定していた大正町の森林で生態調査を開始。毎年飛来して繁殖することを確認すると、この森を恒久的な生息地として守っていくため、トラスト活動を始めました。平成14年3月からスタートした一口オーナーによる基金は目標額をクリアし、同年7月、遂に9.5ヘクタールの土地を購入。

「調査をすればするほど、ヤイロチョウが生息する“森”と“水”の素晴らしさを実感しました。ヤイロチョウがやってくるのは、その地域で最も生態系が豊かな森。そして、一年中涸れることのない水が湧く場所。ヤイロチョウは、一番の森を知っているのです。逆に言えば、私たちに教えてくれているのです。これは、なんとかして残していかなければならない。100年経っても、変わらぬ姿で残しておきたい。そんな思いから、トラスト活動を始めました」とは、中村会長。

同協会はこれからも一口オーナーの募集を続け、10年間で計100ヘクタールの森林を購入したい考え。ヤイロチョウ保護のため、森への一般立ち入りは禁止しますが、近くのダム湖にボートを浮かべ、レンジャー(監視員)によるガイドを行うなど環境保全型のウォッチングを検討しているということです。

(社)高知県生態系保護協会HP <http://www.ecokochi.org>



ヤイロチョウ *Pitta nympha* (撮影:中西和夫)



高知県生態系保護協会会長 中村滝男氏



11月20日看板の除幕式に集まった皆さん

Topics

橋本大二郎知事が高知野菜をPR! 関東圏でテレビCM放送中 2/28迄

おいしく、新鮮で、安心な高知野菜を全国に売り出すため、全国的知名度を誇る知事自らがCMに出演。高知県の11基幹品目をコミカルに紹介している。(放送局:日本テレビ、TBS) ちなみにそれらの中で、四万十川流域で生産されている野菜は6品目もあります。★米ナス・小ナス(梶原町・西土佐村)、ピーマン・ニラ・囲いショウガ(窪川町)、シトウ(十和村・西土佐村) [高知県園芸流通課HP](http://www.pref.kochi.jp/~engei/)